

社会人への「教育、教育、教育」を
—一生勉強、一生青春—

開倫塾

塾長 林明夫

今まで社会教育は、家庭や学校を補うことに重点が置かれてきた。今後は、一人ひとりの人生の成功と持続可能な社会の形成のためにも社会教育は重点を置くべきと考える。

開倫塾では、栃木刑務所の要請で読み、書き、計算など基礎学力が不足している受刑者に対する指導のためベテラン講師を2月から毎週派遣している。不足する学力を補い、受刑者の社会復帰を支援したいためだ。

不登校や落ちこぼれが原因で基礎学力が不足したまま社会に出でしまった人々への教育は急を要する。

また、知識が基礎となった現代社会では、高度な仕事をするのに、専門知識と同時に、英語とコンピュータが自由に使いこなせることが不可欠だ。

デンマークは、変化し続ける社会への対応のために、地元大学等と連携し、社会人への「教育、教育、教育」で失業率を1.6%にまで引き下げた。

高齢者への医療費と介護費用は持続可能な社会をつくる上で最大の課題だ。どうしたら「いつまでも若々しく生きる」ことができるかの教育は、これから65歳を迎える人と同時に、既に六十五歳を迎えたすべての人々にとって不可欠だ。高齢者医療費と介護費のたとえ1%を使ってでも、カリキュラムの開発、指導者の教育、マネジメント人材の確保をすべきだ。

障害を持つ方々への本格的な教育は社会人になってからと考える。障害者への教育予算の大半を学校教育で使い果たすのではなくて、生涯を通じた教育の観点から予算の配分が求められる。

外国から日本へ移り住む人々への日本語教育も避けて通れない。生活日本語、学習日本語、受験日本語とレベルに応じた日本語教育を社会の力で準備したい。

公立図書館の365日、早朝から深夜のオープンは多くの国で歓迎させている。板室温泉の大黒屋の図書室や黒磯のカフェ・ショールーの図書は人気を呼んでいる。どの街でも中央市街地の活性化が課題となっている。空店舗や遊休の公共施設を再活用してのミニ図書館つきの無料図書スペース「街角図書館」は若者だけでなく多くの人々から望まれている。

9月3日記